

| | | | | | | | |
|--|---|------|-------|------|--------------|-----|----|
| 科目区分 | 専門基礎分野 | 履修学年 | 1 年前期 | 単位数 | 1 | 時間数 | 30 |
| 科目名 | 解剖生理学 I | | | 担当教員 | 外部講師 専任教員 | | |
| 使用テキスト | 1) メディカ出版 人体の構造と機能 ①解剖生理学 | | | | | | |
| テキスト以外の教材・参考書等 | 1) 目でみるからだのメカニズム 医学書院 2) 看護形態機能学 生活行動から見るからだ 日本看護協会出版 3) 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能【1】解剖生理学 医学書院 | | | | | | |
| 授業の概要及び到達目標 | | | | | | | |
| <p><u>授業の概要</u></p> <p>本科目の構成は、看護の視点から日常生活行動の意味を考え、解剖生理学の外観が理解できるよう専任教員による導入から始まる。そして、からだの最小単位である細胞、組織、器官の構造と機能を学び、それらを維持するために必要な物質の運搬、交換(呼吸をする)という内容で構成する。</p> <p><u>到達目標</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護の視点から日常生活行動の意味を考え、解剖生理学の外観が理解できる。 2. 人間の身体の構造と機能の基礎が理解できる。 3. 細胞と組織の構造と機能が理解できる。 4. 物質の流通機構が理解できる。 5. 呼吸のしくみと働きを理解できる。 | | | | | | | |
| 評価方法 | 筆記試験 | | | | | | |
| 備考 | 関連科目：自然科学(生物学), 生化学 | | | | | | |

| 回数 | 授業計画 学習内容 | 備考 |
|----------------------|--|------|
| 1 | 解剖生理学のための基礎知識 解剖学によく出る漢字と概念 解剖学を学ぶための科学の基礎知識 形から見た人体(体表から触知する人体の構造、人体の構造と区分、人体の部位と器官、方向と位置を示す用語) | 専任教員 |
| 2 | 解剖生理学のための基礎知識 素材から見た人体(細胞の構造と機能、分化した細胞がつくる組織) 機能から見た人体(動物機能と植物機能の器官系、体液とホメオスタシス) | 専任教員 |
| 3 4 5 | 物質の流通機構 1. 流通の媒体—血液 ①血液の組成と機能 (赤血球、白血球、血小板) ②血漿タンパク質と赤血球沈降速度 ③血液の凝固と繊維素溶解 | 外部講師 |
| 6 7 | 物質の流通機構 2. 流通路—血管・リンパ管 ①末梢循環系の構造 ③リンパとリンパ管 | 外部講師 |
| 8 9 10 | 物質の流通機構 3. 流通の原動力—心臓・血圧 ①心臓の構造 ②心臓の拍出機能 ③血液の循環の調節 | 外部講師 |
| 11 12 13 14 | 呼吸運動 呼吸器の構造 呼吸器の構成、上気道、下気道と肺、胸膜・縦隔 呼吸 内呼吸と外呼吸、呼吸器と呼吸運動、呼吸気量、ガス交換とガスの運搬 肺の循環と血流、呼吸運動の調節(神経性調節、化学受容器、反射、呼吸運動の異常と病的呼吸)、呼吸器系の病態生理(換気障害、拡散障害、換気血流比不均衡、右—左短絡) | 外部講師 |
| 15 | 終講試験 まとめ解説 | |